

令和 7 年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の育成
学校運営	困難に負けない強さと社会の変化に柔軟に対応するしなやかさをもち、自他共の幸福のために貢献する「創造性豊かな世界市民」の育成をめざす。 「校訓」、「創立者とともに」に示された「指針」を諸活動の根幹に置き、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、地球的課題の探究を進める。

2. 教育活動における重点項目(中期的目標)

【I】「創造性豊かな世界市民」の育成

- (1) 創立精神学習の深化
- (2) 「グローバルリーダー」としての資質の育成
- (3) 英語力の強化(CEFR・B1 レベル以上)
- (4) ユネスコスクールとしての活動を活発化

【II】確かな学力で生徒の可能性を最大限に

- (1) 生徒の興味・向学心・主体的な姿勢を引き出す魅力ある授業の創造
- (2) 「考える」ことを軸とした授業の展開
- (3) 家庭学習の定着により自学自習習慣の確立
- (4) キャリア教育の充実
- (5) 豊かな読書環境の醸成

【III】安心・安全の学校づくり

- (1) キャンパス・校舎・通学路の安全確保
- (2) 生徒との対話を通じた学校生活改善への取り組み
- (3) いじめ・暴力を未然に防止
- (4) 支援教育の充実、多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和 8 年 2 月実施分]	学校評価委員会からの意見
○生徒 ・授業評価の各項目は 3.5～3.7 と高く、特に「授業の開始・終了時刻」(3.7)、「配付資料の適切さ」「先生の話し方」「質問への対応」(各 3.6)の評価が高い。 ・授業の総合評価は、約 7 割(67%)の生徒が最上位の評価である。 ・一方で、「予習と復習をして授業に臨んだか」は 3.2 と、他の項目に比べて低い。 ○保護者 ・12 項目中 11 項目で 3.0 以上となった。「創立精神学習の深化」は 3.4 で最も高い。 ・昨年度唯一 3.0 を下回っていた「自学自習習慣の確立」は、2.9 から 3.0 へ向上した。 ・「英語力の強化」が 3.0 から 2.9 へ低下し、唯一 3.0 を下回った。 ・自由記述では、学校の環境や人間関係への感謝、生徒の主体性の育ち、担任による親身な進路指導を評価する声が多く寄せられた。 ○教職員 ・「創立精神学習の深化」「英語力の強化」「キャリア教育の充実」が 3.0 に達した。 ・「自学自習習慣の確立」は 2.3 から 2.4 へ向上したものの、引き続き最も低い。 ・「キャンパス・校舎・通学路の安全確保」(2.7→2.5)、「豊かな読書環境の醸成」(2.6→2.5)が低下した。 ・自由記述では、他者への心配り、授業内での主体的な質問の増加、三人行事の改革を契機とした生徒の自主的な取り組みが挙げられた。	・探究学習のグループワークでは、意見を述べることに心理的なハードルがある生徒が参加しにくい。また、グループの構成によって評価に差が生じることも心配である。 ・探究学習で企業に取材する際、生徒個人の依頼では受け入れてもらいにくい。卒業生のネットワークを活用してはどうか。 ・生徒のレポートや制作物を多くの目で評価することが、生徒の自己肯定感を育てることにつながる。中学校とも共通して、自律的に学びに向かう力を育てていきたい。 ・年度途中に教員の代替が確保できず、専科の教員が不在のまま授業が進んだことに不安を感じた。 ・オープンキャンパスの来場者や職場体験の生徒の挨拶・礼儀について、地域から課題の声がある。基本的な礼儀の指導を引き続きお願いしたい。

【分析】

授業の諸項目について、生徒・保護者・教員の三者で引き続き高い評価を得た。生徒が自ら課題を設定して取り組む授業が定着しつつあることも、その背景にあると考えられる。

「自学自習習慣の確立」は、教員・保護者ともに評価が向上したが、教員評価は依然として最も低い。昨年度の学校評価委員会では要望のあった、学校で落ち着いて学習できる環境については、既存施設を改修して自習スペースを設けることに取り組んでいきたい。

「英語力の強化」は、保護者評価が唯一 3.0 を下回った。CEFR B1 以上の到達率は 27.0%で、全国平均は上回ったものの、目標の 45.0%には届いていない。英語を使う機会の拡充と、小中高イングリッシュセンターの計画の具体化を進めていきたい。

非認知能力測定ツール「AiGROW」では、「影響力の行使」(自分の行動で社会を変えられるという実感)が、入学時から 3 年次にかけて大きく伸びている。この伸長の教育的要因について、引き続き分析を進めていきたい。

年度途中に教員の代替が確保できなかった件については、保護者の皆様にご不安をおかけした。今後は、産休・育休等の見込みを早期に把握し、代替教員の確保を年度初めから前倒しで進める。あわせて、生徒・保護者への文書による丁寧な情報提供を徹底していきたい。

3. 今年度の取り組み内容及び自己評価

	今年度の重点目標	取り組みの内容	評価	改善点
創立精神学習の深化	「創立者とともに」を積極的に活用し、三行大事(栄光の日、情熱の日、英知の日)での創立精神学習を充実させる	佐藤優氏とのコラボレーションプロジェクトにより制作した本を、全校生徒へ配付した。 生徒・教員が自身の原点を語り合う「原点を語る会」を実施した。 三行大事の改革に取り組んだ。	「原点を語る会」は生徒に好評で、継続を望む声や、家庭での話題になった事例があった。 三行大事の改革では生徒から多くの声が寄せられて議論が深まり、生徒自らが学園の伝統を学ぶ自主的な取り組みが始まった。 教員・保護者評価ともに A 評価となった。	生徒の中から生まれた自主的な取り組みを、学校として支え、広げていきたい。 また、創立精神学習推進委員会による立案をカリキュラム化し、計画的・継続的な学びとして定着させる必要がある。
ユネスコスクールとしての活動を活発化	ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む	里山保全活動に継続して取り組んだ。 環境フィールドワークを実施した。 グライアースクールとの国際交流を継続した。	里山保全活動が卒業式で表彰され、活動の定着が確認できた。 環境フィールドワークに参加した生徒が農業活動を継続するなど、連携も深まっている。 大阪公立大学が実施しているユネスコスクール特別選抜に過去 5 年間で 2 名が合格。 これまで海外フィールドワークでこちらから訪問していたグライアースクールが今年度に初めて来校し、交流が実現した。	ユネスコスクールのネットワークを活かした大学進学の実績を積極的にアピールしていきたい。 また、教員が授業の中で SDGs との関連を自然に意識できるよう、働きかけを強める必要がある。
家庭学習の定着により自学自習習慣の確立	オンライン学習システム(スタディサプリ)を積極的に活用する	数学・英語を中心に、スタディサプリを活用した。 長期休暇中などに課題を配信し、家庭での学習を促した。	教員評価が 2.3 から 2.4 へ、保護者評価が 2.9 から 3.0 へ向上した。 スタディサプリの利用者は年々増加しており、全国平均と比べても活用度が高い。 一方、自学自習に対する教員評価は 12 項目の中で依然として最も低い。	活用の時期にばらつきがあるため、年間を通して継続的に活用できる工夫が必要である。 また、既存施設を改修して自習スペースを設けるなど、学校で落ち着いて学習できる環境を整えていきたい。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	評価平均値 上段:保護者、下段:教員	達成度 評価 上段:保護者、下段:教員	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動における重点項目	Ⅰ「創造性豊かな世界市民」の育成	1. 創立精神学習の深化	1.GRIT1での創立精神学習を計画的に実施する(創立精神学習推進委員会による立案をカリキュラム化する)	3.4	A	佐藤優氏とのコラボレーションプロジェクトにより制作した本を、全校生徒へ配付した。「原点を語る会」は生徒に好評で、継続を望む声や、家庭での話題になった事例があった。
			2.「創立者とともに」を積極的に活用し、行動の規範に(GRITにおける教材化) 3.三人行事(栄光の日、情熱の日、英知の日)での創立精神学習を充実させる 4.生命尊厳の思想を体得させる	3.0	A	
		2.「グローバルリーダー」としての資質の育成	1.GRIT2での学び(探究学習)をより深化させる 2.SDGsや国際的な課題だけでなく、周囲の諸問題を自分事と捉え、解決に向けて具体的に行動できるように促す 3.世界市民教育プログラムのさらなる充実を目指す(精選、リニューアル等) 4.国際交流の機会を増やす	3.2	A	外部講師による講話が好評で、多様な外部人材の登壇の有効性を再確認した。グラウアースクールとの国際交流が深化しており、引き続き連携を充実させていきたい。
				2.9	B	
		3. 英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)	1.基礎学力の定着の上に、積極的に英語を使う機会を増やす 2.学園の語学教育資産を積極的に活用する 3.小中高イングリッシュセンターの立案による計画を具体化する	2.9	B	CEFR A2以上42.8%、B1以上27.0%(高校3年生299名、3年次1学期時点)。B1レベルの到達率は全国平均を上回ったが、目標の45.0%には届いていない。今後も英語力の向上に向けた取り組みを継続していきたい。※学校で申し込んで受験し、合格した生徒のみの集計。英検は試験日程の関係で第1回の結果のみを反映している。
				3.0	A	
		4. ユネスコスクールとしての活動を活発化	1.GRITを通じてユネスコスクールとしての学びに取り組む 2.ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む 3.ユネスコスクール主催の行事に積極的に参加する 4.ユネスコスクール間の交流を進める	3.1	A	里山保全活動が卒業式で表彰され、活動の定着が確認できた。環境フィールドワークに参加した生徒が農業活動を継続するなど、連携も深まっている。ユネスコスクール入試での入学者が2名(47期以降)となり、本校固有の強みとして発信していきたい。今後は、教員が授業の中でSDGsとの関連を自然に意識できるよう働きかけを強める。
				2.9	B	
	Ⅱ確かな学力で生徒の可能性を最大限に	1. 生徒の興味・向学心・主体的な姿勢を引き出す魅力ある授業の創造	1.オンライン研修システム等を活用し、自己研鑽に取り組む 2.研究授業・授業公開を通して授業力の向上を図る 3.先進的な教育手法を取り入れ、特色ある授業作りに取り組む	3.1	A	昨年度に続き、家庭科と食堂業者(エームサービス)が連携し、生徒が考えたメニューを昼食として提供する取り組みを行った。情報の授業では生成AIを活用して研究を進めるなど、新しい技術にも挑戦している。
				2.9	B	
		2.「考える」ことを軸とした授業の展開	1.知識の再構成にとどまらず、修得したものを活用・応用ができる力を育む 2.課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む	3.3	A	従来の講義型の授業から、生徒一人ひとりが課題を設定して取り組む授業が定着しつつある。今後も「考える」活動を軸とした授業展開を継続していきたい。
				2.8	B	
		3. 家庭学習の定着により自学自習習慣の確立	1.スケジュール管理ができるように働きかける 2.オンライン学習システム(スタディサプリ)を積極的に活用する	3.0	A	教員評価が2.3から2.4へ、保護者評価が2.9から3.0へ向上した。スタディサプリは数学・英語を中心に利用者が年々増加しており、全国平均と比べても活用度が高い。今後は、既存施設の改修により自習スペースを設けるなど、学校として自学自習の環境を整えていきたい。
				2.4	B	
		4. キャリア教育の充実	1.SG(Soka Global)・SP(Soka Progress)クラスの特徴を生かしながら、進路に応じた計画的な指導を実施する 2.キャリアデザインを通し、適切な将来設計を後押しする 3.キャリアパスポート、ポートフォリオ等を活用し、自己理解・自己管理能力を醸成する	3.3	A	キャリアガイダンスセミナー、大学別説明会、進路別(SUA、医歯薬、GCP等)懇談会を実施した。教員評価が2.7から3.0へ向上し、保護者の自由記述でも担任による親身な進路相談への感謝が寄せられた。
				3.0	A	
		5. 豊かな読書環境の醸成	1.教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす 2.探究活動の中で、専門書などの高度な知識にアプローチさせる	3.0	A	「第12回全国高校ビブリオバトル」で高校2年生がゲスト特別賞を受賞した。ビブリオバトル、名作駅伝(生徒と教員がチームとなって名作を読み深める)、ブックナビーターを継続して実施した。教員評価が2.6から2.5へ低下したため、読書環境のさらなる充実に取り組む必要がある。
				2.5	B	
	Ⅲ安心・安全の学校づくり	1. キャンパス・校舎・通学路の安全確保	1.キャンパス・校舎・通学路の安全点検 2.校内・通学路におけるマナー・ルールの徹底 3.感染症に対する予防措置の徹底 4.災害時の避難方法を徹底(実効性のある避難訓練の実施)	3.2	A	管理職による校内巡回、登下校安全協議会を実施した。保護者評価は向上した一方、教員評価が2.7から2.5へ低下した。低下の要因を分析し、改善に取り組んでいきたい。
				2.5	B	
		2. 生徒との対話を通じた学校生活改善への取り組み	1.生徒の意見を取り入れながらの校則の見直し 2.生徒指導の見直し、生徒指導マニュアルのアップデート・実践 3.対話を通じた学校生活改善・向上への促し 4.犯罪防止策の徹底	3.2	A	教員も参加して生徒総会を実施した。校則検討委員会では、生徒の意見を取り入れながら毎年校則の改正を行っている。教員評価・保護者評価ともに向上しており、今後も生徒との対話を通じた学校生活改善に取り組む。
				2.9	B	
		3. いじめ・暴力を未然に防止	1.アンケートや懇談を通し、生徒の声をよく聴く 2.他人を思いやる心の育成(創立精神学習との連動)	3.2	A	生活アンケートの実施・分析を行った。教員評価が2.5から2.9へ、保護者評価が3.1から3.2へ向上した。今後も生徒の声をよく聴く取り組みを継続していきたい。
				2.9	B	
		4. 支援教育の充実、多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進	(個別の実践項目なし)			キャリアサポート(教室外での学びを支援する仕組み)の実施3年目となり、生徒・教員に運用が定着してきた。思いやりの心や人権意識の基本となる「挨拶」の大切さを、生徒・教員で確認し合い、気持ちの良い挨拶を交わし合う雰囲気づくりに取り組んでいきたい。

※評価平均値は、保護者・全教員が4段階で評価した平均値(保護者254名、教員28名が回答)。

※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9～2.0をB、1.9以下をCとした。